

# 会報 CoilCenter コイルセンター No.272

2026年新年号

巻頭メッセージ

年頭所感

新年賀詞交歓会

CC-News

経済産業省 2025年度第4四半期ヒアリング

ストックヤードから

第197回理事会開催

第198回理事会開催

2025年度若手育成合同研修会・後期開催

第17回小集団活動発表交流会開催

組合員情報

2025年度  
中堅社員向け安全研修会開催



全国コイルセンター工業組合  
<http://www.tekkoo.net/>

## CONTENTS

### 3 年頭所感

小河 通治 全国コイルセンター工業組合 理事長  
鍋島 学 経済産業省 製造産業局 金属課 課長  
遠藤 悟 鉄鋼産業懇談会 薄板部会 会長  
宮本 義久 鉄鋼産業懇談会 薄板部会 商社代表

### 7 新年賀詞交歓会

### 10 CC-News

経済産業省 2025年度第4四半期ヒアリング

### 11 エリアごとの活動

関東コイルセンター工業会 2025年度第2回役員会開催  
2025年度第3回役員会開催  
第106回経営者懇談会開催  
2025年度懇親ゴルフ会開催  
関西コイルセンター工業会 関西薄板三団体納涼会開催  
需給委員会開催  
第75回懇親ゴルフ会開催  
第3回ソフトボール大会開催  
日本製鉄(株)瀬戸内製作所 見学会  
東海コイルセンター工業会 2025年度夏季例会開催  
2025年度秋季例会開催  
創立60周年記念ゴルフ会開催  
製鉄所の見学会を開催  
今後の主な行事予定

### 17 ストックヤードから

会議／委員会：第197回理事会が開催されました。

- ：第198回理事会が開催されました。
- ：2025年度生産性向上セミナー（大阪会場）（東京会場）開催されました。
- ：2025年度管理者教育「基礎」講座（名古屋会場）開催されました。
- ：2025年度（第19回）中堅社員向け安全研修会（名古屋会場）開催されました。
- ：2025年度若手育成合同研修会・後期 開催されました。
- ：第17回小集団活動発表交流会 開催されました。

組合員情報：人事のお知らせ

### 21 事務局のページ

事務局レポート  
今後のスケジュール  
編集後記

# 年頭所感



全国コイルセンター工業組合  
理事長 小河 通治 (株)小河商店 代表取締役社長)

ご安全に 令和8年 2026年の新春に際しまして 一言ご挨拶申し上げます。

平素は組合活動にご理解ご協力賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ると、アメリカの新大統領誕生による関税問題、当初は中国製品への問題が我国にも波及し、コイルセンター業界の最大のユーザーである自動車業界に激震が走り、50%の税率を掛けると宣言し我国の自動車業界は困惑しておりましたが、50%が15%に落着いたとは言え従来の2.5%から6倍の税率に決定し、更に大型トラック、アルミ鉄鋼製品にも50%の税率を明言し該当業界は困惑しているのが現状です。その中で我国に初の女性総理大臣が誕生し「責任ある積極財政」として昨年11月閣議決定した21兆3千億円の総合経済対策の早期執行と効果ある政策をお願いします。その様な中で、当工業組合の本年度の出荷見通しは需給調査委員会によると出荷量は前年比横ばい99.9%の1,331万トンの見通しであります。2016年以降1,300万トン台が継続しています。昨年10月末の業界紙に日本製鉄・橋本会長兼CEOの談話が掲載されており文中に、将来我国の粗鋼生産量が6,000万トンになるとの記事がありショックを受けております。又本年2月には東海コイルセンター工業会が60周年記念祝賀会を開催予定し、昭和40年12月の設立以来60年にわたり活発な活動を継続されたのも歴代会長はじめ役員幹部、会員各社の指導と努力の賜物と敬服しております。又、関東コイルセンター工業会も60周年を迎える予定でございます。

伝統あるコイルセンター工業を更に盛上げ頂きたく存じます。

一方、グリーンスチールは鉄鋼連盟によりGXスチールと改称され従来のCO2削減証書にCFP(カーボンフットプリント)を加えGXスチールガイドラインと改訂され我々コイルセンターの管理能力を問われる時代になりました。本年1月より「取引適正化法」が施行され更に4月より「物流効率化法」も施行されます。会員各社が昨年の熱中症対策で業界紙を賑わせた様に情報を密にして対応して下さい。

本年は午年で六十干支の丙午の年に当たります。午は「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」年と言われ「跳ねる 駆ける 達成する」年とも言われており会員各社と共にこの一年を駆け抜けたいと思います。

最後に会員各社様のご繁栄とご安全をご祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせて頂きます。



# 年頭所感



経済産業省  
金属課 課長

令和8年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年も、岩手県大船渡市で発生した林野火災や青森県東方沖を震源とする地震をはじめとして、多くの災害が発生しました。被災されたすべての皆様に、改めてお見舞いを申し上げます。

昨年、世界では、米国の鉄鋼・アルミ・銅に対する追加関税措置が発表され、EUやカナダにおいても関税割当措置や追加関税が発表されるなど、国際貿易環境に大きな変化がありました。そうした中、国内では、日経平均株価が初めて5万円の大台に乗せるなど、これまでの日本経済からの変化の基調が現れました。

人手不足、インフレ圧力の高まりなど、多くの課題はありますが、今年は、米国の関税措置などの国際秩序の変化に対応しつつ、皆様とともに、強い経済を実現する一年としてまいりたいと思います。

さて、米国関税措置については、昨年7月に日米間の合意が成立し、9月4日に関連する大統領令等が発出されました。

日米関税交渉を通じて、自動車分野を中心に関税を引き下げるることはできましたが、残念ながら金属分野の関税は引き下がっておらず、中小企業を含め様々な企業に影響を与える可能性があります。

こうした影響を緩和するため、取引適正化の推進、中小企業等の販路拡大支援などを着実に実施してまいります。

また、鉄鋼業においては、世界的な過剰生産能力が大きな問題となっております。各国が様々な通商措置を講じる中で、我が国においても、不公正な形での鋼材の流入が確認された場合には、WTOルールに基づき、適切な対応をとってまいります。

昨年10月に誕生した高市政権において、危機管理投資・成長投資を集中的に行う17つの戦略分野が示されました。こうした投資を官民一体で推し進めることで、我が国経済の自律性や、世界における不可欠性を高めながら、成長を実現してまいりたいと思います。

また、高付加価値な投資を後押しする「大胆な投資促進税制」の創設が令和8年度与党税制改正

## 製造産業局 鍋島 学

大綱に盛り込まれました。本税制が活用されることで、国内設備投資が更に進むことが期待されています。

また、物価上昇を上回る賃上げを実現するために、適切な価格転嫁が重要となります。本年1月1日より中小受託取引適正化法・受託中小企業振興法が施行されました。同法により新たに規制対象とされた協議に応じない一方的な代金決定の禁止を徹底するとともに、サプライチェーン上の複数事業者の連携を支援してまいります。

GXの分野においては、昨年来、改正GX推進法に基づく排出量取引制度を具体化すべく、各産業界の現状を踏まえつつ、分野別の排出量原単位等の作りこみを行ってきました。2026年度は、いよいよ本制度を本格稼働させる年となります。経済産業省としては、GX製品の需要創出、排出削減が困難な産業向けの燃料転換や製造プロセス転換に対する支援も同時に進めることで、脱炭素化に向けた皆様の取組を後押ししてまいります。

昨年、大阪・関西万博は2,900万人を超える来場者をお迎えし、成功裏に閉幕することができました。関係者の皆様におかれましては、多大なる御支援を賜り、深く感謝申し上げます。今後は、一連の成果を整理し、「レガシー」としてどのように継承していくか、検討を進めてまいります。

福島復興も重要課題です。本年は、東日本大震災から15年を迎えます。第3期復興・創生期間が始まる節目の年であり、引き続き、安全かつ着実な廃炉とALPS処理水の海洋放出や、避難指示解除に向けた取組、事業・なりわいの再生や新産業の創出などに、全力で取り組んでいきます。能登半島地震と豪雨災害からの復興についても、伝統産業を含めて被災した事業者のなりわいの再建を支援します。

経済産業行政は多くの課題に直面しております。金属課においても、様々な御意見に耳を傾けながら、全身全霊で職務に取り組んでまいります。

最後に、皆様の益々の御発展と、本年が素晴らしい年となることを祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。



## 鉄鋼サプライチェーンの 真価・底力を發揮し “踏ん張る”一年に

鉄鋼産業懇談会 薄板部会  
会長 遠藤 悟

(日本製鉄株式会社常務執行役員 薄板事業部長)

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

全国コイルセンター工業組合の皆様におかれでは、平素から鋼材メーカーと需要家様を結ぶサプライチェーンに必要不可欠な流通・加工拠点としてご尽力を賜り、心から敬意と感謝を申し上げます。

昨年のわが国経済は、インバウンド需要やサービス消費等の非製造業が好調であったものの、鋼材需要は力強さを欠きました。自動車分野で米国向け関税率引き下げはあったものの他要因も含め完成車輸出が減少したことに加え、建築分野では時間外労働の規制強化や諸コストの上昇により住宅・非住宅の着工指標は前年比マイナスで推移しました。この結果、2025年度の国内鋼材消費は5,000万トンを割り込んだ昨年度の水準を更に下回ることが想定されます。海外についても、中国の過剩能力・需給ギャップ拡大に加え、米国を含めた各国・地域での通商措置の林立等、事業環境は厳しさを増しました。

これらは本年も継続すると認識せざるを得ません。私たちは、人口減と輸出産業の不透明感による国内鋼材需要の低迷、世界的な保護貿易政策の拡大は、もはや常態化するとの認識のもと、厳しい事業環境を乗り越えていく必要があります。

こうしたなか、昨年は、ニッケル系ステンレスや溶融亜鉛めっき（GI）に対するAD調査が鉄鋼一次製品として初めて開始される等、経済産業省殿のご理解とご尽力により日本としての通商施策が大きく前進した一年でもありました。引き続き、迂回防止策も含めた不公正な貿易への的確な対応について、日本鉄鋼連盟の一員として日本政府との対話を積極的に進めます。

鉄鋼サプライチェーンは、これまで様々な試練

を自律的に克服してきました。コロナ禍を含めた急激な需要減、鉄鋼主原料価格と鋼材市況のデカップリング等の難題に対しても、サプライチェーンの価値を高め、持続可能性の向上を追求・実現してきました。足下で強固なサプライチェーンが堅持されていることがその証左です。

今後、事業環境が厳しさを増すなかにあっても、これまでの取組み・成果のうえに立ち自らの価値を高め続けなければなりません。DXによる業務効率化、省エネの徹底を通じたカーボンニュートラルへの対応力強化等は継続的に取組むべきテーマと考えます。加えて、実需に合わせ生産・加工能力を適正化することが極めて重要です。

そのうえで、サプライチェーンとしての価値向上分とともに、労務費、物流費等の総じて共通するコスト上昇分については、引き続きお客様にも応分の負担を求めていく必要があります。

鉄鋼サプライチェーンは、製造業、建築・土木分野ひいては日本の産業全般を支える文字通り基幹的な存在です。国内外の情勢・環境条件が大きく変化する今こそ、サプライチェーンの真価・底力を發揮し、持続可能性を更に高めることで、我が国の産業競争力強化に資する役割を果たすべき「踏ん張りどころ」と認識しています。

これらに前向きに取組むためにも「安全」は大前提です。会員各社のご発展、ご家族の皆様のためにも労働災害の撲滅に向け継続的に取組んでいきましょう。

結びにあたり、本年が、貴組合ならびに会員各社の皆様にとって、今後の確かな飛躍に向けた一年となりますよう心から祈念申し上げ、新年の挨拶いたします。

## 年頭所感



# 2026年 年頭のご挨拶

鉄鋼産業懇談会 薄板部会  
商社代表 宮本 義久 (株式会社メタルワン副社長執行役員)

新年明けましておめでとうございます。全国コイルセンター工業組合の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。昨年に引き続き、本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、2025年を振り返りますと、世界的な通商摩擦の深刻化、中国の内需減速、欧州での環境規制強化、米国の保護主義的な政策など、地政学的リスクは一層高まり、国内外の鉄鋼業界が様々な課題に直面した一年となりました。特に米国による各種の関税措置や、それを受けた中国によるレアアースなどの輸出管理強化は需給の不均衡を引き起こし、多くの産業でサプライチェーン構造の見直しを迫られましたが、メーカー各社並びに商社・コイルセンター各社が一体となり、安定供給体制の維持に向けて、需給調整や在庫管理に取り組んでまいりました。関係各位のご尽力に心より感謝申し上げます。

国内市況に目を向けると、自動車関連は底堅く推移したものの、建設分野における需要は低調でした。一方で、訪日外国人はコロナ前を上回り、年間4,000万人に迫る勢いを見せるなど、観光を中心としたインバウンド消費が国内経済を牽引しました。輸出も回復基調にあり、製造業にも明るい展望が広がっている中、日銀は政策金利の引き上げを発表し、過度な円安を抑えつつ、物価と賃金の好循環を維持する方針を打ち出しております。また10月から発足した新政権では持続的成長の基盤構築を目指して「責任ある積極財政」を掲げており、こうした動きにより、2026年以降の持続的成長への期待が高まっています。

昨年は大阪・関西万博に向けた関連需要の高まりや、データセンターを始めとする国内外のインフラ投資など、明るい兆しも確認ができた一年でした。技術革新やDX（デジタルトランスフォーメーション）の活用による効率的な供給体制の構築、競争力強化と環境負荷低減の両立を目指す取り組みが進展する中で、カーボンニュートラル実現に向けた官民の取り組みが一段と強化され、鉄鋼業界でも脱炭素化や高付加価値製品へのシフトが着実に進展しております。そのような中で、鉄鋼流通にかかる労務費や物流費など諸コスト上昇についても、お客様より適切にご理解を頂くべく、商社としても業界の皆様と連携し、持続可能な鉄鋼流通サプライチェーンの基盤作りに引き続き取り組んで参りたいと考えております。

今年の干支は『午（うま）』です。古来より『午』は力強さと前進を象徴し、困難な状況でも着実に歩みを進める年とされています。全国コイルセンター工業組合の皆様との協力関係をさらに深め、変化の激しい時代にあって技術革新と人材育成を加速し、競争力強化と環境負荷低減の両立、更には安定供給の体制強化に取り組んでまいりたいと存じます。

最後になりますが、本年も安全・品質を最優先に、持続可能な鉄鋼産業の発展に向けて全力を尽くす所存です。引き続き皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。本年が皆様にとりまして実り多き一年となりますことを心より祈念し、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

# 鉄鋼流通団体合同新年賀詞交歓会が開かれました

去る1月9日（金）、ロイヤルパークホテルで鉄鋼流通団体合同の賀詞交歓会が開催され全国から関係者が集まり新年を祝いました。今年は全国コイルセンター工業組合・関東コイルセンター工業会が担当団体となりました。小河通治全国コイルセンター工業組合理事長の挨拶に始まり、鍋島学経済産業省製造産業局金属課長の祝辞、廣瀬孝鉄鋼産業懇談会長の乾杯と続き、藤澤鐵雄関東コイルセンター工業会会长の中締めでお開きとなりました。寒空の中、全国から参集された約650人の方々はそれぞれ新春を寿いで和気あいあいの雰囲気の中、新しい年への期待を感じて散会されました。それでは当日のご挨拶の模様をお伝えいたします。



## 小河通治 全国コイルセンター工業組合 理事長

ご安全に。新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、年初よりアメリカ合衆国トランプ新大統領の関税問題に振り回されまして、薄板業界の最大のユーザーであります自動車産業のアメリカ輸出への影響が大きくなりました。輸入材に対しましてはAD調査（ステンレス・薄板・溶融亜鉛メッキ鋼板）が開始され現在調査中です。又日本で初めての女性総理が誕生しました。11月に閣議決定された21兆3千億円の総合経済対策の早期推進と効果ある政策実施をお願いしたいところです。



コイルセンター工業組合では2年前に続き2回目の「適切な事業環境実現に関するお願い」を発出しました。今回は労務費の上昇、設備保全・サプライチェーン維持のため、ユーザー、取引先の理解を得る努力をしております。

カーボンニュートラルにて、グリーンスチールは鉄鋼連盟によりGXスチールと名称変更され従来のCO2削減証書にCFP（カーボンフットプリント）を加えGXスチールガイドラインと改訂されており、我々流通の管理能力が問われる時代になっております。

本年1月より取引適正化法が施行され、更に4月より新物流効率化法も施行される予定です。昨年の熱中症対策法に続き法律が施行されます。本日お集りの流通各社の更に一層の努力が必要と思われますので、流通同士でお互いに情報交換を密にして推進したいと思います。

本年は「午年」それも60年に一度の丙午の年に当たり勢いがあり「跳ねる 駆ける 達成する」年と言われております。皆様と共にこの年を駆け抜けたいと思います。

最後に、本日ご参集の各社様のご隆盛と皆様のご健勝ご安全をご祈念申し上げ、冒頭の挨拶とさせて頂きます。

## 来賓祝辞 鍋島 学 経済産業省 製造産業局 金属課 課長

新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、1月のトランプ政権発足、3月の鉄鋼関税導入、6月の関税引き上げ等様々な米国関税に振り回された一年でございました。年の後半にはEU、カナダにおいても鉄鋼関税導入の動きが見られました。米国だけの特殊事情とは言えない状況となっております。背景としては世界的な鉄鋼過剰生産問題、特に特定の国による非市場的な行動による過剰生産問題が原因にあります。自由経済体制が曲がり角にきており、時代の転換点に来ていると考えます。



としまして赤沢大臣以下、地政学的な問題が日本に波及しないように様々な対策を取って行こうと考えております。

昨年7月には冷延ステンレス鋼板、8月には溶融亜鉛メッキ鋼板についてAD調査を開始しました。WTOルールを踏まえ適切に対応して行きます。

昨年はGX推進のためのグリーン鉄研究会の取り纏めを行いました。4月からは自動車関係でグリーン鉄の補助金上乗せ措置の導入を行い、年末には公共工事について2030年度から本格的にグリーン鉄を利用する方針を示しています。グリーン鉄使用拡大について金属課では昨年秋に検討会を作り、グリーン鉄について流通の中でどのように取り扱っていくか、議論しています。

本年1月1日から中小受託取引適正化法、所謂取適法が施行されています。一方的な代金決定の禁止等を徹底して行きたい。すべての企業に於いて賃上げが実現する社会を作り、経済の好循環に繋げて行きたい。

昨年大阪関西万博が成功裏に閉幕することができました。1900万人を超える来場者を迎えるました。

福島県に関しては全力で取り組んでまいります。

今年の干支は午年でございます。スピード感や力強さの象徴で、今年はぜひこの経済が力強いものとなり、皆様のご商売においてもいいものとなればと祈念いたします。

### 乾杯挨拶 廣瀬 孝 鉄鋼産業懇談会 会長

皆様、ご安全に。新年明けましておめでとうございます。

2025年の経済は緩やかな回復傾向にあったものの米中対立、ロシアのウクライナ侵攻の長期化、中東情勢の悪化等地政学的なリスクに加え、世界的な自国第一主義の台頭によって不確実性が増した一年となりました。国内に於いても大阪関西万博の成功等明るい話題もございましたが、山林火災・集中豪雨・地震が多発するなど災害が起きました。エネルギー・食料価格の高騰など種々の問題が顕在化した一年でございました。鉄鋼業においても非常に厳しい一年であり、トランプ関税に端を発して各国が自国第一主義にのつて施策を展開、本来のWTOの理念から大きく乖離した世界になってしまいました。2020年以降中国の内需が減少するなかで過剰な生産能力が維持され、安価な鋼材が世界に溢れ出し国際市況の低迷を招いています。市況低迷は4年続いており、未曾有の状況です。国内の需要は建設・製造業向けとも振わない状況が続いています。2025年は2年連続で5000万㌧を割るような状況で、2019年コロナ過前に比べると1000万㌧減少している。建設業・製造業向け夫々500万㌧減っている状況です。純内需が700万㌧、製品となって間接的に輸出されるものが300万㌧減っております。2026年に向けて大きな構図は変わらないために大きな回復は見込めない状況です。製造業の需要の過半を外需に依存していることで、世界の通商政策の動向に大きく左右される構図です。不透明で波乱の多い海外情勢に鑑みると需要の大きな改善は見込み難いと言わざるを得ません。鉄鋼の問題の最大の震源地である中国における大幅な減産や供給能力の削減は見込めないことから、当面は現状の状況が継続すると想定せざるをえません。2026年を見渡しますと消極的・悲観的になってしまいがちですが、こういう時こそ能動的・楽観的になりたいものだと思います。課題山積の裏側には改善の可能性が山ほどあると考えていくべきと考えます。未来に向けて前向きに世の中を変え、自分自身を変えるという観点から3点挙げさせていただきます。ひとつは建設向けをはじめとする純内需の需要促進でございます。近年続いております建設分野に於ける状況、即ち物件プロジェクトは多々有るものインフラの劣化が深刻化しているにも拘らず人手不足、物流課題、諸物価高騰等により物件が動きださない状況が2年以上続いております。この中で省力化・短納期化・省資源化を打ち出せる高構造をより普及させるべきではないかと思います。鉄鋼メーカーのみならず、流通加工業の皆様と共に知恵を出し合って施主様、施工主様を動かしていくことが肝要ではないかと思っております。もう一つが日本の製造業を支えるサプライチェーンの国際的競争力の向上であります。鉄鋼業の純内需を輸入・他素材から守る為に国内需要の4割近くを占める間接輸出需要を確保していく為にサプライチェーン全体の国際競争力が不可欠です。その競争力は単なるコストではなく品質・サービスを含めた総合的・実質的な競争力であるべきだと思います。メーカー・流通一体となって競争力を上げていくことが必要だと思います。3つ目として、流通加工の改革・革新の期待でございます。建設・製造業いずれのセグメント向けに於いても流通加工事業の存在感・重要性が増してまいります。一方で各社が自らを強化できなければ諸物価高騰のなか、流通機能自身さえ維持できなくなるという懸念も拡大します。業界としても世の中を変える、取引関係を変える取り決めを熱心に進められておりますが、更に進めて行くことが肝要かと思いま



す。鉄鋼メーカーも危機的状況に先んじて構造改革を進めてまいりましたが、今後も流通加工業界の皆様と共に連携・協力を深め乍ら、流通加工業界の皆様の構造変化を含めた進化・革新を期待してまいりたいと存じます。大きな変動、激動が常態化している時代になっていると言えるかもしれません。そんな時代であればこそ、理想と希望を忘れないで目指すべきものを探索し続けられる可能性を信じて歩んでまいりたいと思います。本年は午年、気難しい荒れ馬なのか、軽やかに駆け抜ける名馬なのかわかりません。どんな馬であっても目線を高くもち、遠くを見渡し乍ら荒れ馬を駿馬に乗りこなしていけるようになりますが大切であると考えております。

六団体会員の各社様の一層のご発展、本日ご参考いただきました皆様のご健勝、ご多幸を祈念します。

乾杯。

### 中締め 藤澤 鐵雄 関東コイルセンター工業会 会長

新年明けましておめでとうございます。

本年1月1日から中小受託取引適正化法「取適法」が始まりました。手形・小切手の決済ではなく、製品が納入されて60日以内に現金化される商取引となります。限りなく現金化に近い取引に近づけていくことです。資本金3億円、従業員300名以上のスタートでこれは大きな第一歩と考えます。いずれ我々全ての産業が現金取引になっていくものと理解しております。資本金3億円ではない企業に於いても、下請けをお願いしている会社もございます。経費をお願いしている会社もあるかと思います。我々もこれからの新しい時代に対応して行く必要がございます。

中締め三本締めでお願いいたします。



六団体幹部集合写真

## 経済産業省 2025年度第4四半期ヒアリング

- 日時：2025年12月22日（月） 於：経済産業省
- 出席：組合側 小河理事長 / (株)小河商店  
竹林副理事長 / 福栄鋼材(株)  
奥澤理事 / 奥澤産業(株)  
稗田理事 / 大阪鋼庄(株)  
東野事務局長  
経済産業省 金属課 鍋島学課長、  
鈴木美保課長補佐、  
阿部 楓氏

ヒアリング次第 司会：竹林泰治副理事長

- |                    |        |
|--------------------|--------|
| 1. 理事長挨拶           | 小河理事長  |
| 2. 総括              | 竹林副理事長 |
| 3. 品種別説明           |        |
| ・冷延鋼板 / 関西地区       | 稗田理事   |
| ・表面処理鋼板 / 東海地区(代理) | 東野事務局長 |
| ・熱延鋼板 / 関東地区       | 奥澤理事   |
| 4. 懇談              |        |
| 5. 閉会              |        |

### 《コイルセンター工業組合 現状》

本年4～10月の出荷量は651万㌧、(前年同期比99.7%)。当組合の主要需要家の一つである自動車業界にて、トヨタは生産トラブルが散見され、必ずしも好調とは言えない状況、他メーカーは米国関税の影響もあり、厳しい状況が続いている。10月末の国内薄板3品在庫は前月から393万㌧となり、活動水準が低い為、依然高水準といえる。

### 《対面業界のトピックス》

**【自動車】** 日産は回復の兆しが見えない。2027年以降九州工場への移管が始まる予定。三菱・ダイハツは挽回生産もあり、増加傾向にある。

**【建機・産機・農機】** 半導体関連など産機は好調だが、通商環境の影響を受けるので注視必要。農機は米価高止まりによる復調傾向。

**【鋼製家具】** オフィスリノベーション向けは好調を継続。店舗向けショーケースも堅調。データセンターは建屋・屋内施設に大量の鋼材を使用することから、今後の需要に期待が高まる。

**【建設・建築】** 人手不足、拘束時間制限、資材高騰によるコスト増によりふるわぬ。2026年は端境期となり低調が続く。

### 《その他》

#### 1. 適切な価格転嫁と取引適正化

- ・引き続き政府、経産省として本事案に鋭意取り組んでいく。
- ・競争上の事情もあり、CC側・販売先（中小規模）間の支払サイトが、いまだに長く据え置かれている例があることは理解したが法制化による対応は難しい。まずは関連部局に相談する。
- ・（懇談において組合側より、大手需要家より取適法対象回避のため資本金増額の圧力を受けた例を話したところ）非常に問題である。そうした不適切な情報を今後も教えてほしい。

#### 2. 安価な輸入材への対応 AD調査

- ・鋭意調査中だが初めてのことで時間を要している。詳細については開示できない。発表から最長1年内に決定する、ということだ。
- ・要請をうけて迂回防止についても対象とした、財務省とよく連携している。
- ・鉄鋼連盟からの対象拡大要請に応えられるよう、調査側の対応陣容を増やすなどの対応をとっている。

## エリアごとの活動

### 関東コイルセンター工業会

#### 2025年度第2回役員会を開催

- 開催日時：2025年8月26日（火）16:20～16:50
- 開催場所：鉄鋼会館 804会議室
- 出席者：理事13名、監事1名

#### 【議題】

##### 第1号議案 第60回定期総会報告に係る件

去る6月10日開催された総会の収支実績報告がなされ、出席役員は了解されました。

##### 第2号議案 60周年記念行事に係る件

2026年9月14日（月）、15日（火）、16日（水）、17日（木）を開催候補日と決め、実行委員会にて最終開催予定日を決定することとしました。

##### 第3号議案 「需給調査」集計結果報告の件

事務局より集計結果を報告しました。

##### 第4号議案 工業会主催行事について

事務局より説明しました。

##### 第5号議案 小集団活動発表会について

9月6日（土）日比谷コンベンションホールにて開催することとしました。

##### 第6号議案 その他

管理部門実務者懇談会、製造部門実務者懇談会を下期に開催することとしました。

次期役員会にて2026年度予算案を検討することとしました。

#### 2025年度第3回役員会を開催

- 開催日時：2025年11月25日（火）16:00～17:30
- 開催場所：鉄鋼会館 804会議室
- 出席者：理事12名、監事2名

#### 【議題】

##### 第1号議案 2025度収支予算・2026年度収支予算案に係る件

配布された2025年度収支予算資料・2026年度収支予算案資料を事務局が報告し、その内容について出席全理事・監事は了承しました。

##### 第2号議案 工業会主催行事に係る件

(1) 第106回経営者懇談会 12月11日（木）開催予定。

(2) 鉄鋼流通団体賀詞交歓会 1月9日（金）ロイヤルパークホテルにて開催予定。

## エリアごとの活動

(3) 2025年度「製鉄所見学会」 1～3月開催予定。

(4) 2025年度第4回役員会は3月5日（木）。

## 第3号議案 その他

(1) 2025年7～9月需給調査結果

需給調査結果について配布された集計結果を事務局が報告しました。

(2) 60周年記念行事

開催日を2026年9月14日（月）（予備日17日（木））に決定しました。

(3) 製造実務者懇談会・総務／管理部門懇談会を2026年1～3月に開催。

## 第106回経営者懇談会を開催

● 開催日時：2025年12月11日（木）15:00～17:00

● 開催場所：鉄鋼会館 803・804会議室

● 出席者：27社 28名

2025年度上期の経営実態アンケート調査の関東地区の集計結果が報告されました。



第106回経営者懇談会

## 2025年度懇親ゴルフ会開催

● 開催日時：2025年11月15日（土）

● 開催場所：鷹之台カンツリー倶楽部

● 出席者：12名

例年より気温が高い日でしたが、天候に恵まれ皆様楽しくラウンドされました。



懇親ゴルフ会

## 関西コイルセンター工業会

### 関西薄板三団体納涼会開催

- 開催日: 2025年7月17日 (木)
- 会場: 徐園
- 出席者数: 66名

関西地区薄板関連三団体（関西コイルセンター工業会・大阪鐵鋼流通協会薄板部会・大阪薄鋼板シャーリング組合）合同による、毎夏恒例の納涼会が開催されました。

数えて35回目となる今回は、関西コイルセンター工業会が幹事団体として、存在感のある大きな門構えで有名な老舗の中華料理「徐園」にて開催。冒頭、竹林会長より「ここまで多くの業界の人が集まる懇親の場は関西ならではの貴重なイベント。大阪・関西万博やインバウンドの増加で非常に活気がある関西から全国に元気を発信していきたい。」と挨拶。乾杯の音頭の後、出席者各々が時間の経過を忘れるほど大いに盛り上がり、賑やかな雰囲気を残しながら散会しました。

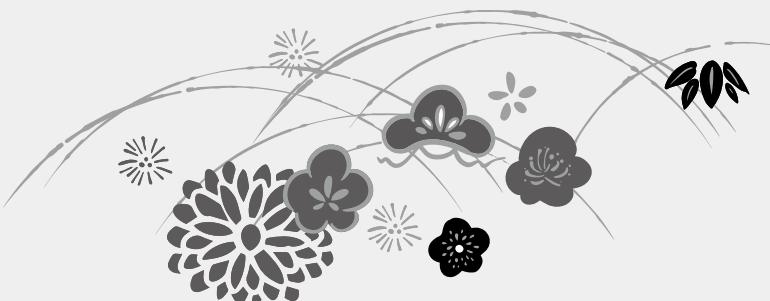
### 需給委員会開催

- 日時: 2025年8月19日 (火)・11月18日 (火)
- 会場: 大阪 鐵鋼会館

第一部: 需給委員会（稗田靖久需給委員長・熱延部会長）を熱延部会、冷延・表面処理部会（吉田英司部会長）を合同で開催。先に提出された各社資料を元に、状況報告が行われました。

第二部: 講演会を開催。8月は社会保険労務士法人みつばち 代表 高橋大生様による「物流を取り巻く環境の変化」をテーマ。11月は住友生命保険相互会社 健康経営アドバイザー 小林英一郎様による「健康経営を考えるセミナー」をテーマに、それぞれご講演いただきました。

次回の開催は、2026年2月17日に予定しております。



## エリアごとの活動

## 第75回懇親ゴルフ会

- 日 時: 2025年9月13日 (土)
- 会 場: 関西ゴルフ倶楽部

親睦委員会（谷本隆行委員長）主催による秋の恒例行事、第75回懇親ゴルフ会を開催。会員各社より16名が参加し、熱戦が繰り広げられた結果、谷本隆行氏（関包スチール株）が見事優勝を獲得いたしました。



第75回懇親ゴルフ会

## 第3回ソフトボール大会

- 開催日: 2025年11月2日 (日)
- 開催場所: 住友総合グランド
- 参加会社: 9社

親睦委員会主催により、会員同士の親睦を深める事を目的とした大会も今回で3回目となり、優勝を決めるレクリエーション方式で開催しました。参加者はもちろん、その家族も応援に駆け付け、晴天に恵まれ大いに盛り上がりました。



第3回ソフトボール大会

## 日本製鉄(株)瀬戸内製鉄所 見学会

- 日 時: 2025年12月1日 (月)
- 参加人数: 45名

技術・保全委員会（堀内憲二委員長）主催、日本製鉄(株)瀬戸内製鉄所（広畠地区）見学会を実施しました。電炉・熱延・冷延 (F. I. P. L)・溶融亜鉛めっき (2CGL) を見学。その後、設備保全活動に関するご講演をいただきました。

コイルセンターの主力である薄板のプロセスと保全の大切さも学び、充実した見学会となりました。



日本製鉄(株)瀬戸内製鉄所 見学会

## 東海コイルセンター工業会

### 2025年度夏季例会の開催

- 開催日時：2025年7月17日（木）17:30～
- 開催場所：吟釀マグロ 名古屋ルーセントタワー店
- 参加者：19社 31名

昨年に引き続き、暑い夏を乗り切りましょうと“暑気払い懇親会”を開催しました。冒頭、全国と東海CCの活動報告と今後の予定などを発表した後、小河会長の乾杯発声で開宴され大いに盛り上りました。



2025年度夏季例会・会場風景

### 2025年度秋季例会の開催

- 開催日時：2025年10月23日（木）17:00～
- 開催場所：今池 ガス燈
- 参加者：19社 33名

創立60周年を迎えることから「60年の軌跡を語る特別フォーラム」を開催しました。パワーポイント画像を見ながら先輩経営者の苦労や今に続く諸課題なども語り合いました。フォーラムの後の懇親会でも会場に掲示した昔の新聞記事を見ながらの意見交換も見られました。



秋季例会60周年フォーラム

## エリアごとの活動

## 創立60周年記念ゴルフ会

- 開催日時：2025年11月8日（土）8:56スタート
- 開催場所：セントクリークゴルフクラブ（愛知県豊田市）
- 参加者：13社 18名

今年度のゴルフ会は「創立60周年記念ゴルフ会」と銘打ち開催しました。

優勝は、永徳久幸さん（日鉄物産名古屋コイルセンター（株））でした。当日に、参加者の皆さんそれぞれに60周年記念のマーカーを用意して贈りました。



創立60周年記念ゴルフ会・集合写真

## 製鉄所の見学会を開催

- 開催日時：2025年11月17日（月）13:30～16:30
- 開催場所：日本製鉄（株）名古屋製鉄所
- 参加者：15社 43名

昨年に引き続き開催されました。同社のゲストホールに集合し、小河会長と名古屋製鉄所の谷口工程業務部長の挨拶に続き製鉄所の概要説明を聞いた後、旧高炉マンテル→熱延工場→第1溶融亜鉛メッキラインの順に見学しました。今回も製鉄所を見るのが初めての人が多く、見学後の質問も数多く出て本当に貴重な体験が出来ました。



製鉄所の見学会

## 今後の主な行事予定

- 2026年2月24日（火）・・・『創立60周年記念祝賀会』～ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋にて開催予定。
- 2026年5月21日（木）・・・『第61回定時総会』～サイプレスホテル名古屋駅前にて開催予定。

## 第197回理事会が開催されました。

- 開催日時：2025年8月26日（火）15:10～15:50
- 開催場所：鉄鋼会館 804会議室
- 出席者：理事13名、監事2名



第197回理事会

### 第1号議案 第44期通常総会実績報告の件

配布された総会の収支実績資料を事務局が報告し、その内容について出席全理事は了承しました。

### 第2号議案 取引適正化に関する文書の件

配布された「適切な事業環境整備実現に関する改めてご協力お願い」に関し、その内容について出席全理事は了承しました。9月1日（月）事務局より全会員企業に発出することとしました。発出後業界紙にて内容公表することとしました。

### 第3号議案 第84回経営実態アンケート調査の「変動項目」に関する件

今回調査の変動項目は「2024年物流問題について」「副業・兼業について」について調査することとしました。

### 第4号議案 組合主催行事に係る件

配布された2025年度行事予定について事務局より報告しました。

## 第198回理事会が開催されました。

- 開催日時：2025年11月25日（火）15:10～16:10
- 開催場所：鉄鋼会館 805会議室
- 出席者：理事16名、監事2名

### 第1号議案 2025年度収支予算・2026年度収支予算案の件

配布された2025年度収支予算資料・2026年度収支予算案資料を事務局が報告し、その内容について出席全理事・監事は了承しました。

### 第2号議案 組合主催行事に係る件

- (1) 経済産業省ヒアリング 12月22日（月）
- (2) 鉄鋼流通団体合同賀詞交歓会 1月9日（金）於 ロイヤルパークホテル  
担当 司会：長坂副理事長、受付：遠藤・奥澤（健）、VIP出迎え：奥澤（公）・稗田 各理事
- (3) 設備保全講習会（九州会場）2月26日（木）、（大阪会場）第6講座 3月13日（金）～14日（土）
- (4) 第199回理事会、第98回鋼板流通懇談会（商社） 2026年3月5日（木）

2025年度生産性向上セミナー（大阪会場）（東京会場）開催されました。

## ～ムダを取って、職場を変える…ムリじゃない～

2025年度は大阪、東京2会場にて、職場の生産性改善をテーマに研修を行いました。毎年同じようにやっている仕事、視点を変えてみると意外とムダなことやロスが見えてきます。上手に仕事を変えていけば、職場はもっと働きやすくなる、学びの多いセミナーでした。



### 研修会実施要綱

#### 東京会場

- 開催日: 2025年10月3日（金）～4日（土）
- 開催場所: 鉄鋼会館 805号室
- 受講人数: 3社 5名

#### 大阪会場

- 開催日: 2025年10月10日（金）～11日（土）
- 開催場所: 大阪鐵鋼会館 5号室
- 受講人数: 4社 9名



東京会場にて



大阪会場にて

2025年度管理者教育「基礎」講座（名古屋会場）開催されました。

## ～部下を持ったら、まず受ける講座～

職場で一番悩んでいるのは……管理職。上からの期待、下からの要望、板挟みで大変なのは……リーダー。でも、毎日の仕事を動かしているのは……。

2015年から、組合で取り組んできた「人財活用・育成研究会」の場でも重要な課題となっていたのは中堅社員や管理職が存分に存在感を発揮して会社を引っ張っていってほしい、ということでした。

今回はこのテーマに焦点をあてて、職場でリーダーシップを発揮する方々に管理者としての「基礎」を学んで頂きました。高度ポリテクセンターの協力を得て講師には長年（株）デンソーで人財教育に携わってきた川澄幹雄先生をお迎えし、2日間のコースで講座が開かれました。



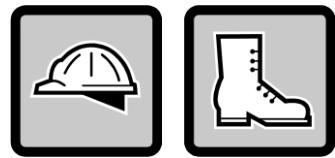
管理者基礎教育講座

### 研修会実施要綱

- 開催日: 2025年11月7日（金）～8日（土）
- 開催場所: ウインクあいち 1007号室
- 受講人数: 2社 7名

2025年度（第19回）中堅社員向け安全研修会（名古屋会場）開催されました。

## ～基本から学ぶ職場安全の「鉄板コース」～



毎年開催される組合の基幹事業のひとつです。8年ぶりに名古屋にて開催しました。

製造業の労災事故の撲滅にむけ官民が一体となり2017年3月に「製造業安全対策官民協議会」が発足しました。製造業における安全対策を従来以上に強化するための施策が打ち出されました。組合は常日頃より職場の安全衛生の向上を目指に掲げて活動しております。この安全研修会はそのような組合活動の主要な行事と位置付けられているものです。



中堅社員のための安全研修会

### 研修会実施要綱

- 開催日: 2025年11月28日（金）～29日（土）
- 開催場所: ウインクあいち 1302号室  
実習工場: 日鉄物産名古屋コイルセンター（株）
- 受講人数: 5社 9名



中堅社員のための安全研修会

2025年度若手育成合同研修会・後期 開催されました。

## ～活かしませんか あなたの会社の若い力を～



人財の育成はいつでも、どの企業でも重要なテーマです。今年で18回目を迎えた組合主催の「若手育成合同研修会」の後期プログラムが終了しました。半年の時を経て再び集まるコイルセンターの仲間10社17名、きずなをより強く、明日の会社の成長を支える力が育っていきました。

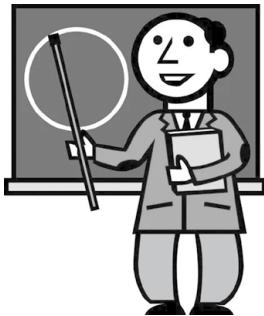


若手育成合同研修会

### 2025年度若手育成合同研修会・後期の概要

- 開催日: 2025年12月4日（木）～6日（土）
- 研修会場: 鉄鋼会館 804会議室  
工場見学先: 日鉄物産コイルセンター（株）
- 参加人数: 6社 9名

## 第17回小集団活動発表交流会 開催されました。



9月6日（土）第17回目「小集団活動発表交流会」を日比谷コンベンションホールで開催致しました。組合員企業の中から6チームが出場して、自社の小集団活動、QCサークルの発表をしました。社内の活動を社外の方々に披露する、見学する方も発表する方も色々な意味で刺激を受ける一日でした。

- 開催日：2025年9月6日（土）
- 交流会会場：日比谷コンベンションホール
- 発表チーム：6社 6チーム、見学90名



藤澤鐵雄会長



小集団活動発表交流会

## 《組合員情報》

### 人事

#### ■ニイガタ産業振興株式会社（新潟県）

2025年6月次の通り決まりました。

代表取締役社長 河村 圭造

#### ■村山鋼材株式会社（千葉県）

2025年10月次の通り決まりました。

代表取締役社長 村山 雄星

#### ■北海道シャーリング株式会社（北海道）

2025年6月の定時株主総会・取締役会にて次の通り決まりました。

代表取締役社長	今井 一男
取締役（非常勤）	溝田 慶宏
取締役（非常勤）	桐村 秋晴
取締役（非常勤）	金岡 秀紀
取締役（非常勤）	赤池 教彰（新任）
取締役（非常勤）	岩井 徹也
副社長執行役員	山本 明（新任）

#### ■西山鋼業株式会社（東京都）

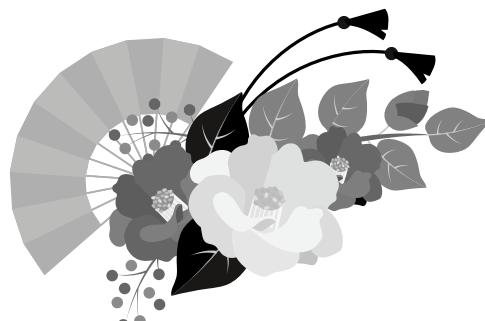
2025年12月次の通り決まりました。

代表取締役社長 西山 晋平

#### ■紅忠サミットコイルセンター株式会社（広島県）

2025年9月次の通り決まりました。

代表取締役社長 高田 泰祥



## 事務局レポート [Jul-Dec]

### 上期 (2025年7月~9月)

- 7月18日~19日 機器保全講習会第2講座（大阪会場 2025年度）を開催した。受講者5名 【高度ポリテクセンター関西】
- 7月28日~30日 若手社員育成合同研修会前期を開催した。受講生12名 【鉄鋼会館】
- 8月1日~2日 生産現場における機器保全・安全衛生研修会（大阪会場）が開催された。受講生9名 【高度ポリテクセンター関西】
- 8月22日 遠藤理事来局し、4・5・6・7月度の会計内容のチェックを行った。 【事務局】
- 8月26日 第197回理事会を開催した。（理事・監事16名出席 第44期通常総会実績報告、組合主催行事、取引適正化レターについて、報告を行った） 【鉄鋼会館】
- 8月29日~30日 機器保全講習会第3講座（大阪会場 2025年度）を開催した。受講者2名 【高度ポリテクセンター関西】
- 9月1日 適切な事業環境整備実現に関する改めてご協力のお願いの文書を小河理事長名にて発出した。
- 9月6日 小集団活動発表交流会を開催した。（発表：6チーム、見学：90名） 【日比谷コンベンションホール】
- 9月12日 11月開催予定の「中堅社員のための安全研修会」に関する第一回技術委員会をWebにて開催した。 【事務局】
- 9月17日 日本鉄鋼連盟、鉄鋼4団体意見交換会を開催した。小河理事長がWEBにて出席された。 【鉄鋼会館】
- 9月29日 経産省需要見通しヒアリングが開催された。（2025年度第3四半期の需要見通しについて） 【経産省】

### 下期 (2025年10月~2025年12月)

- 10月3日~4日 生産性向上セミナー（東京会場）開催した。受講生3社5名 【鉄鋼会館】
- 10月10日~11日 生産性向上セミナー（大阪会場）開催した。受講生4社9名 【大阪鉄鋼会館】
- 10月29日 日本鉄鋼連盟、鉄鋼4団体意見交換会を開催した。小河理事長がWEBにて出席された。 【鉄鋼会館】
- 11月7日~8日 管理者教育基礎講座（名古屋会場）を開催した。受講生1社4名 【ウインクあいち】
- 11月14日~15日 機器保全講習会第4講座（大阪会場）を開催した。受講者2名 【高度ポリテクセンター関西】
- 11月17日 遠藤理事来局し8・9・10月度の会計内容のチェックを行った。 【事務局】
- 11月25日 第111回鋼板流通懇談会（メーカー：日本製鉄）を開催した。 【鉄鋼会館】
- 12月4日~6日 若手社員育成合同研修会前期を開催した。受講生9名。 【鉄鋼会館】
- 12月19日~20日 機器保全講習会第5講座（大阪会場）を開催した。受講者5名 【高度ポリテクセンター関西】
- 12月22日 経産省需要見通しヒアリングが開催された。（2025年度第4四半期の需要見通しについて懇談した） 【経産省】

## 今後のスケジュール (Jan – Jun)

### 2026年

1月9日(金)	● 鉄鋼流通団体合同新年賀詞交歓会	ロイヤルパークホテル
2月26日(木)	● 機器保全講習会（九州会場）	日本製鉄㈱九州支店（予定）
3月13日(金)~14日(土)	● 機器保全講習会 第6講座	ポリテクセンター関西
5日(木)	● 第96回鋼板流通懇談会（商社）	鉄鋼会館
5日(木)	● 第199回全国・理事会	鉄鋼会館
下旬	● 経産省ヒアリング（2026年度第2四半期）	経済産業省
5月下旬	● 第112回鋼板流通懇談会（メーカー）	鉄鋼会館
下旬	● 第200回全国・理事会	鉄鋼会館
6月9日(火)	● 第45期全国コイルセンター工業組合通常総会	鉄鋼会館
下旬	● 経産省ヒアリング（2026年度第3四半期）	経済産業省

昨年12月14日、身内でホノルルマラソン2025に初めてのフルマラソンとして出場、あいにくの雨模様にもかかわらず、6時間弱のタイムで完走したことを聞きました。昨年1月に2025年の抱負としてフルマラソン完走を目標に設定、その目標を達成したそうです。2026年1月、皆さんは今年の目標を何か、決めましたか？体を鍛えること、

どこかに旅行すること、仕事で新たなことを達成する等々、周りの家族・職場の同僚と語り合ってはいかがでしょうか。

2026年度組合総会、理事会、各講習会・研修会、その他行事について会報に記載できる記事が目白押しでございます。2026年度も各講習会他、組合員各企業様の奮ってのご参加をお願い申し上げます。

編  
集  
後  
記

会報コイルセンター

No.272 2026年1月29日発行

発行所 全国コイルセンター工業組合

東京都中央区日本橋茅場町3丁目2番10号（鉄鋼会館）

TEL 03-3662-6590

編 集 (株)トック企画